



呼吸器内科からご案内



平素からお世話になりありがとうございます。
呼吸器内科が診療を担当するのは呼吸器系(肺、気管支、胸膜)の病気です。呼吸器疾患は高齢化の進む我が国において重要な疾患となっています。

当科では胸部異常陰影の診断、気管支喘息や慢性咳嗽の診断と治療、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、胸膜炎、気胸、呼吸不全など呼吸器疾患全般にわたって診療を行っています。しかし呼吸器疾患は様々な合併症や基礎疾患を有することが多く、また膠原病のような全身疾患の一部分症として呼吸器病変が生じることも少なくありません。したがって呼吸器疾患の診療には他の多くの診療科や検査室、リハビリテーション科との協力が不可欠で、当科では常に緊密に連携しています。

肺癌診断については、気管支鏡検査(年間約500件)はもちろん、気管支内視鏡超音波法(EBUS-TBNA)や末梢型の小型肺病変に対するアプローチとして仮想気管支鏡ナビゲーションを併用したガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)を用いた組織採取を行い適正

な診断を行っています。気管支鏡検査は鎮静下に実施し、検査に伴う患者さんの苦痛軽減をはかっています。

今期の新規導入機材としましては局所麻酔下胸腔鏡検査を導入しました。胸膜悪性腫瘍のほか、原因不明の胸膜炎に対して威力が期待されています。

そのほか肺炎をはじめ呼吸器感染症全般の診療にも力を入れています。とくに難治性感染症である非結核性抗酸菌症(近年とくに中高年女性に増加傾向)や肺真菌症の治療にも、積極的に取り組んでいます。

当科の特徴としましてはご紹介いただいた症例は初診時に直ちにCTなどで精密検査を行い、“お待たせしない”姿勢で数日以内に気管支鏡検査を実施し、一刻も早く治療につながるようスタッフ一同奮闘しています。常に患者さんに寄り添い、一人一人に親身な診療を心がけております。呼吸器疾患でお困りの際にはどうぞお越しく下さい。



呼吸器内科 部長 清家 則孝

病院の理念



1. 患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に務めます。
2. 患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
3. 新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
4. 思いやりのある医療人の育成に努めます。

お知らせ 外来診察変更

| | | | |
|-------|----------|----------|------------------|
| 消化器内科 | 8月4日(金) | 尾野 亘 医師 | 休診 |
| | 8月10日(木) | 山田孝雄 医師 | 休診 |
| 眼 科 | 8月8日(火) | 芳田裕作 医師 | 休診 → 塩地麻裕華 医師 代診 |
| | 8月14日(月) | 若山佳子 医師 | 休診 |
| 婦 人 科 | 8月10日(木) | 井上 裕 医師 | 休診 |
| 皮 膚 科 | 8月14日(月) | 小澤俊幸 医師 | 休診 |
| 脳神経外科 | 8月15日(火) | | 休診 |
| 耳鼻咽喉科 | 8月15日(火) | 西原美沙子 医師 | 休診 |
| 循環器内科 | 8月16日(水) | 村田恵理子 医師 | 休診 |
| 精 神 科 | 8月16日(水) | 原田朋子 医師 | 休診 → 新田朋子 医師 代診 |
| | 8月25日(金) | 児玉祐也 医師 | 休診 → 宮本沙緒里 医師 代診 |
| 腫瘍内科 | 8月22日(火) | 林 秀敏 医師 | 休診 |
| 呼吸器内科 | 8月29日(火) | 佐藤佳奈子 医師 | 休診 |
| 小 児 科 | 8月31日(木) | 坂東賢二 医師 | 休診 |

ご紹介 新任医師

循環器内科

医長

むらた えりこ

村田 恵理子



4月より循環器内科常勤となりました村田恵理子と申します。心エコー検査を中心に、循環器診療に携わって参りました。

近年、高齢化がより一層進み、動脈硬化性の弁膜症疾患も増えております。非侵襲的な経胸壁心エコー検査等で重症度診断を行い、治療適応の際は入院精査も行います。最近では、従来の外科的人工弁置換術に加えて、カテーテルによる人工弁置換術(TAVI)により、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方へも治療適応が広がっております。動悸や息切れ症状、心雑音のある方などお気軽にご相談いただけましたら幸いです。少しでもお役に立てるよう頑張りますので、何卒よろしくお願ひ致します。

呼吸器内科

こばやし まさのり

小林 正典



初めまして。4月より呼吸器内科に着任した小林正典と申します。この3月まで大阪市立大学医学部附属病院で研修しておりました。

呼吸器内科は気管支喘息・肺気腫・間質性肺炎など幅広く、高齢化社会の日本ではますます需要が求められる分野です。そのような社会であるからこそ、患者さんの呼吸症状を緩和し、より快適な生活を過ごすことができる診療を心掛けていきたいと考えております。まだまだ未熟な点が多いと思いますが、患者さんに寄り添った医療を行うように努めますので、何卒よろしくお願ひ致します。